

【森林】

私たちの暮らしと森林

豊かな自然環境は、わたしたち人間や多くの生き物が生きていくために必要不可欠です。中でも森林は重要な役割を果たしています。

森林は、たくさんの雨水を吸い込んで、蓄えられた水は地下水となって少しずつ川に流れ込んでいきます。ですから、森林は「緑のダム」とも言われています。また、多くの生き物の命を育むとともに、光合成をして酸素を作ったり、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防いだり、様々な働きがあります。

また、わたしたちの身のまわりには、木を原料とするものがたくさんあります。家や家具などの木材で作られたもののほか、本やティッシュペーパーなどの紙の原料としても使われています。

森林の果たす役割

二酸化炭素を取り込んで酸素を作る
地球温暖化を防ぐ役割もあります。

野生動物のすみかになる

みんなが楽しむ場所になる
ハイキングや森林浴など

洪水や水不足を防ぐ
雨は、スポンジみtainな森林の土に吸い込まれて地下水となって時間をかけて少しずつ川に流れます。

山崩れを防ぐ
木の根が土をしっかりとまえてくれます。

ほかにも
風や砂、潮害を防ぐ
気温の変化を和らげる
などの働きがあります。

CO₂(シー・オー・ツー)
: 二酸化炭素
O₂(オー・ツー): 酸素
H₂O(エッチ・ツー・オー): 水
C(シー): 炭素

健全な森林

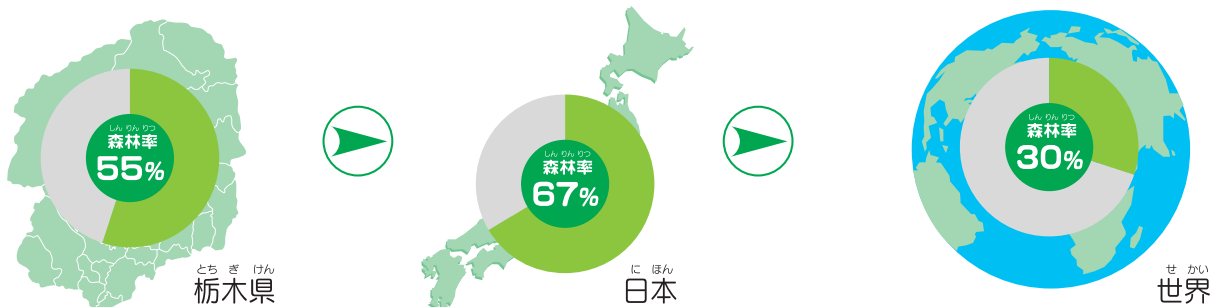
日本の森と世界の森 森林の面積はどれくらい？

栃木県の森林面積は、約35万ヘクタール(平成20年度末)で、森林率は約55%です。森林には、人が苗を植えて育てた人工林と自然に育った天然林があり、栃木県の森林の約45%が人工林で、残りの約55%が天然林などです。

日本全体で見ると、森林面積は約2,512万ヘクタールで、森林率は約67%です。日本の森林面積は、30年前から減少することなく、ほとんど同じ面積で推移しています。

世界の状況を見てみると、森林面積は約39億5千万ヘクタールで、森林率は約30%です。森林面積の4割以上は熱帯林で、農業開発や無秩序に行われる焼き畑、過放牧、薪炭林の過剰伐採などが原因で、2000年から2005年においては毎年約730万ヘクタール(日本の国土の1/5)の森林が減少しています。中には、違法に伐採された森林もあります。

※森林率: 森林面積をすべての土地の面積で割ったもの



【森林】

木を使うことで、日本の森林が育ちます

世界レベルでの森林の減少や熱帯林の伐採問題の話の話を聞いたりすると、何となく「木を伐ることは悪いこと」というイメージをもつかもかもしれません。

木を伐って何もしなかったら、森林はなくなってしまう。でも、伐ったあとに木を植えて育てていけば森林はなくなりません。木を使う文化を持った日本の森林が減らないのは、伐った後に木を植えて大切に森林を育ててきたからです。

人の手で植えられたスギやヒノキなどの人工林は、適切に管理して元気のある森林に育てないと、その働きが十分に発揮できません。元気な森林をつくるためには、曲がったり、成長の遅れた木などを間引いて、残った木の成長を促す「間伐」を行ったり、木材として使える太さに成長した木を伐って、若い木に植え替えることなどが大切です。

木を植え、育て、木を伐って利用し、再び木を植えることをくり返すサイクルを続けることで、森林の働きが発揮され、環境が守られるのです。



里山と里山林

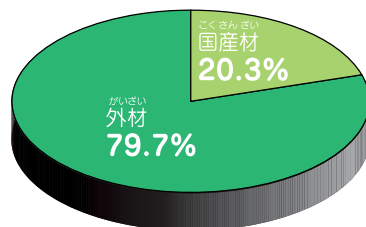
里山は、都市と人の住んでいないような自然豊かな地域の間頃くらいの場所の集落周辺にあって、古くから人の働きかけを通じてつくられてきた地域のこトです。また、里山林は、里山の中の林のうち、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹林やアカマツ林のこトで、薪・炭などの燃料や、肥料になる落葉、シイタケの原木などを採取する林として、長い間、人の手が加えられてきました。

里山林の周辺には水田や畑、ため池、草原などがあり、里山は多くの野生の生き物を育む自然豊かな環境となっています。

日本で使われる木材はどこから来るの？

わたしたちは、家や家具、紙など、いろいろな形で木材を利用していますが、それらの多くは、日本の国外の森林で生産された木材を輸入したものです。日本の森林を守り育てるため、日本で育てられた木材の利用を進めましょう。

国産材及び外材(用材)の供給状況(平成18年度)



資料：林野庁「木材需給表」
財務省「貿易統計」
注：丸太以外は丸太換算値

わたしたちに
できること

森林を守り育てるために

● 森林を元気にすることが大切です。

森林を手入れしないで放っておくと、もやしのようなひよろひよろの木がぎゅうぎゅうに詰め込まれた状態となって、幹も根も十分な成長ができなくなります。

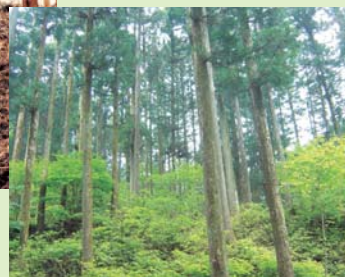
また、地面まで光が届かないために、森林の下層植生が生えず、土壌がむき出しのままになってしまい、大雨が降った時には土壌が押し流されて山が荒れたり、下流の人々の生活を脅かすような被害も出てしまいます。

手入れをして森林を元気にすることが大切なのです。



手入れがされず元気がない森林

手入れがされた元気な森林



木を使おう

- 木製品を買うときは、木材生産に配慮した製品を買う。
- 日本で育てられた木で作られたものを使う。

森づくりを支えよう

- 緑の募金に協力する。
- 森づくりに取り組む団体に寄附をする。
- 森林の大切さを家族や知人に伝える。

森づくりに参加しよう

- 森づくりのボランティア(植樹、下刈りなど)に参加する。
- 森林とふれあう機会を増やす。
- 里山体験に参加する。
- 花だんづくりや庭に木を植えるなど、身近な緑づくりをする。



木は炭素の貯金箱!!

大切に使うことで、地球温暖化防止に役立ちます

学校で使っている木製の1組の机・いす(約12kg)は約6kgの炭素を蓄えています。この机・いすが燃えると、二酸化炭素が発生します。



とちぎの元気な森づくり県民税

県民の皆さんから「とちぎの元気な森づくり県民税」として、年額700円(個人)の負担をいただいています。

この税金は、元気がなくなった森林を、県民みんなで元気にして、大切な森林の動きを将来にわたって十分発揮させていくために、奥山の人工林を間伐したり、身近な里山林を整備したり、森林環境学習をはじめ森林を守り育てることの大切さを理解していただくための取組などに使われています。

緑の募金

「緑の募金」は、募金に協力して下さる個人・団体の皆さん、募金活動の拡大に協力して下さる個人・団体の皆さん、そして募金を活かす緑づくりグループ等の皆さんで成り立っています。

皆さんから寄せられた「緑の募金」は、身近な緑づくりや緑化の普及啓発などを行うボランティア団体の活動支援などに使われています。

「木々のカルテ」を作って、木に親しもう

家の庭や公園、街路、里山など、わたしたちのまわりには、いろいろなところに木があります。

葉や実の形、枝の生え方、幹の色や模様など、木の種類によって、それぞれの特徴があります。どんな木があるか探して、「木々のカルテ」を作ってみましょう。

1 実施する場所で、木のデータを集めます。ここでいうデータとは、木のタネ(実)、葉、枝、樹皮のたく本(樹皮の模様を紙に写し取ったもの)、落ち葉です。これらの実物を収集します。そしてその主である木の名前※も調べます。時間によって、1種類に限定するか、何種類も集めるか決めておきましょう。また、「ぼくの木」「わたしの木」のように、自分の木を決めて、1年間観察するのもいいでしょう。

※木の名前は葉などの特徴から、まず図鑑などで調べてみましょう。それでも分からない時は、地域の専門家の方などに聞いてみましょう。

2 大きな紙やボードに、収集してきたデータをはりつけていきます。木の種類別に、分かりやすいデザインを工夫し、はりつけていきます。これが「木々のカルテ」です。



時間 1~2時間
場所 樹木のあるところ
 ならどこでも。
 公園、学校内も可。
人数 何人でも
対象年齢 小学校中学年以上
時期 年間を通して
準備するもの スケッチブック
 えんぴつ・ボンド

▼木のデータをはりつけた木々のカルテ

	ソメイヨシノ	サザンカ	アカマツ	コナラ
タネ(実)				
葉				
枝				
樹皮のたく本				
落ち葉				
花				

1枚の紙に、本物の実・花などをはりつけましょう。はりつけの方法は各自工夫してみましょう。押し葉・押し花にすると、長持ちします。